

問 先人顕彰館の今後について、閉館を含め現状の方向性は。

答 指定管理者と現状の課題について協議し、令和8年度は、収蔵品や資料のデジタル化に取り組み、いつでも閲覧が可能な環境を整備する。



子ども・子育て支援金制度について

問 令和8年4月から制度が開始される事業について伺う。

答 6つの事業があるが、市が実施主体となるものは児童手当の拡充、妊婦のための支援給付、こども誰でも通園制度の3事業である。そのうちのこども誰でも通園制度は、就労要件を問わず、生後6カ月から満3歳未満の未就園児が時間単位で保育園等を利用でき、本市でも実施する予定である。

問 支援金額は、医療保険制度の加入者の平均から試算されているが、定期的に見直しされるのか。

答 令和8年度から令和10年度まで段階的に引き上げられる。

本市では国民健康保険の加入者から徴収することになるが、県から示される支援金給付額に応じ、毎年税率の算定を行う。

地域医療ビジョンについて

問 市民の期待と医療環境のギャップを埋めるための今後のビジョン策定の対応は。

答 医師不足の現状からすべての診療は困難であると互いに理解し認識を共有することが重要と考える。



録画配信はこちらから

質問した項目

- 子ども・子育て支援金制度について
- 安定した行政運営体制について
- 不登校やいじめ問題について
- 地域医療ビジョンについて
- 先人顕彰館の今後について

成田 哲男 議員 (誠心会)

質問時間 30分

問 市役所業務に生成AIを本格導入したことにより期待される効果について伺う。

答 職員の能力向上を図りながら、今後さらなる市民サービスの充実と効率的な市政運営の実現に資するよう努めていきたい。



出生数目標の進捗よく管理と効果検証体制について

問 市は令和3年度から12年度までの10年間で累計出生数904人を目標としているが、これまでの実績及び令和7年度の見込みについて伺う。また、年度別目標を設定していない理由についても併せて伺う。

答 出生数の実績は、令和3年度112人、令和4年度88人、令和5年度95人、令和6年度は65人で、令和7年度については68人

を見込んでいます。年度別目標については、婚姻動向や経済情勢など出生数の増減に関わる変動要因が多いことから設定はしていないが、今年度改訂した人口ビジョンを踏まえ、第7次総合計画では、累計904人を目標とし、令和8年度以降は年平均約95人を進捗管理の目安として、行政評価の中で施策の改善につなげる。出生数は行政の施策のみで調整はできないものの、出産・子育てを希望する方が安心して希望を叶える環境整備は重要であることから引き続き、切れ目ない出産・子育て支援の取組を進め、人口の安定を図っていく。



録画配信はこちらから

質問した項目

- 出生数目標の進捗よく管理と効果検証体制について
- 若者回帰施策と関係人口について
- スポーツワーク活用支援事業について
- 公共施設削減の判断基準について
- DX推進について
- ほか

松村 託磨 議員 (無党派)

質問時間 60分